

社会的知性を育む対話的・協働的な 「学びの場」の解明と設計のための文理融合研究

1. 研究の先にある新たな未来とは？

様々な社会課題の解決には、対話が不可欠です。本研究の成果を活用することで将来的には、年齢・性別・言語・国籍・障がいの有無を問わず、多様な人々が意見を交わし、相互を理解し、誰もが十分納得づくで合意形成や意思決定に至るよう、コミュニケーションを支援し、人との協調・協働が可能な人工知能の実現が期待されます。



2. どんな研究をしている？

人の「社会的知性」を捉えることが可能な人工社会知能を構築し、その分析結果を活用することで、「対話的・協働的な学び」の場をデザインするための原理を見出すことを目指して研究を行っています。具体的には、自閉スペクトラム症児を対象としたソーシャルスキル訓練を対象として、指導者と児童の間に生じる社会的相互作用の解明に取り組んでいます。

3. その研究をしようと思ったきっかけは？

本研究は、情報科学の研究者と教育心理学の研究者の連携による文理融合研究であり、人工社会知能の構築と社会的知性を育む「学びの場」の解明・設計という課題を結合することで、文理の知の相互還流による相乗効果が期待できると考えました。その点、文系理系が一つのキャンパスに集うという本学のメリットが活かされる点も研究を始めたきっかけの一つです。

「対話的・協働的な学び」を導く
社会的知性研究拠点

拠点長：大塚 和弘（工学研究院）



詳細はこちら



いいね！を貼ろう